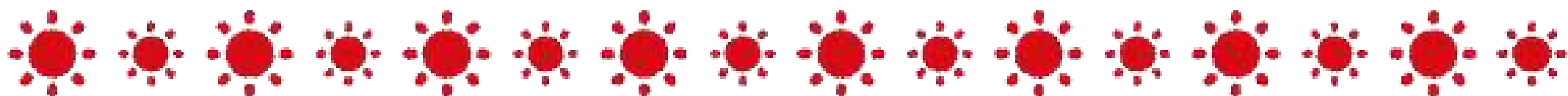


毎日暑い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。夏真っ盛り、8月のカスタネット通信は7月の活動報告とお知らせです。最近が高齢期難聴の話題が多かったのですが、今月号は小児難聴についてです。

小児難聴研修会



7月11日(木)、町田市の難聴学級やきこえの教室を担当されている、町田市難聴部会の先生方と研修会を行いました。2021年にもお招きいただき研修会を行いました。その時のテーマは人工内耳でした。今回は「難聴児の理解と個別指導」をテーマに、補聴機器については補聴器を中心にお話をしました。

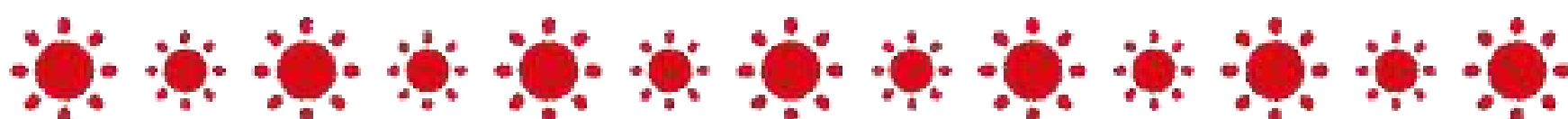
研修会では、医療機関で働く言語聴覚士(ST)の仕事を通して、“**難聴**”、“**補聴器**”、“**言語指導**”、“**家族・本人支援**”について講義を行いました。その中で、補聴外来に来ていただいているエイド町田店からお借りしたPhonak と Oticonの補聴器と補聴援助機器(ロジャー)を実際に試聴する時間を設けました。ロジャーの試聴では、騒がしい環境下でロジャーの送信機を持った人の話を聞くという通常の使い方だけでなく、パソコンやスマートフォンと接続して動画やラジオの音声を補聴器で聞くという体験もしていただきました。また、私が普段クリニックで使用している教材を持参し、どのような目的でどう使っているかということをお見せしました。



↑ 山崎小に行きました

参加された先生方からは、「実際に補聴器やロジャーを体験したことで、**補聴器を装着しているとちょっとした雑音がとても大きく聞こえる**ことや、**ロジャーの聞き取りやすさ**について、改めて実感することができた」「たくさんの教材を紹介していただいて、とても勉強になった」といった感想をいただきました。子ども達の生活範囲・関わる人々は幼少期は家族、幼稚園・保育園の先生方など狭い範囲に限られています。しかし小学校・中学校・高校と成長するに伴い、その世界はどんどん広がり、関係性も複雑になっていきます。子ども達自身が自分の聞こえ、補聴器や人工内耳について十分理解し、どんな場面で聞こえにくいのか、どうすれば聞き取り易くなるか、コミュニケーションの相手に伝えていく必要があります。子ども達がこのような問題対処能力や援助要請の力を身に付けていくためには、家族や私たちSTがサポートしていくのですが、子ども達が長い時間を過ごす学校の先生方のサポートも欠かせません。今回のような研修会が定期的で開催され、通常学級の先生方にも聞こえ、難聴、補聴機器について理解してもらう機会を持てればよいと考えました。

補聴器適合判定医師研修会



町田での研修会の翌週、国立障害者リハビリテーションセンターで開催された補聴器適合判定医師研修会で、小児の補聴器適合と療育について話をしてきました。補聴器を使用されている方は、補聴器を装着した状態の聞こえを調べる「補聴器適合検査」を受けたことがあると思います。その検査を実施するためには、耳鼻咽喉科医師が補聴器適合判定医師研修会を修了している必要があります。

研修会会場の最寄り駅は埼玉県所沢市の航空公園です。駅前には駅名にもなっている「所沢航空記念公園」があり、モニュメントには「航空発祥の地」と刻まれていました。所沢市役所のホームページによると、明治44年(1911年)4月に所沢に日本初の飛行場が開設されたため、日本の航空発祥の地といわれているとのことでした。

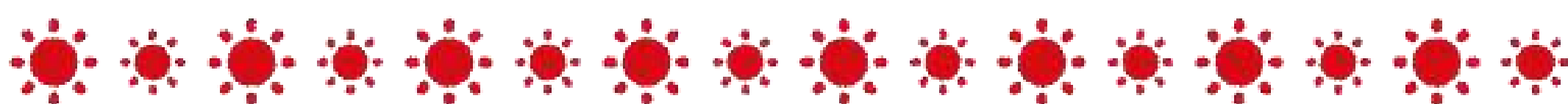


↑ 戦後初の国産旅客機YS-11

研修会では、小児特有の聴力検査の方法や、補聴器の調整方法、器種選択や小児が使うのに便利な機能についてお話をしました。成人と小児の聴覚障害の臨床を比べて最も異なるところは、小児の場合は補聴器適合に加えて言語発達や構音、保育園・幼稚園、学校などの集団生活の場での他者との関わりなどにもアプローチをしていく必要があるということです。“多職種連携”ですね。

カスタネット通信のことも宣伝したので、読んでもらえると嬉しいなと思っています。

きこえの相談会



オギジビが開院した2020年、近隣の皆様に向けて「補聴器体験会」を2回開催しました。今回その内容をリニューアルし、第1回「きこえの相談会」を行いました。1階の看板やエレベーター内、待合室にポスターを掲示してあったので、目にした方もいらっしゃるかもしれません。

さて補聴外来を行うなかで、家族に勧められて耳鼻科を受診したが自分では聞こえの悪さに気づいていない、聞こえの悪さを感じてから受診まで数年経過している、補聴器は年寄りくさい・価格が高い・雑音が入るさくて使えないというイメージを抱いている、といった方が多いと感じています。



↑ 掲示したポスター



↑ 待合室を会場にしました

そこで「きこえの相談会」では講義形式で“きこえの仕組み”、“加齢と難聴”、“難聴の自覚”、“補聴器の選び方”などについて、30分程度お話ししました。その後、参加者からの質問にSTが個別に答える時間を取りました。今回の相談会に参加された方々は、ご自身が聞こえにくいということを感じてはいるけれど、次のステップをどうすればよいか、ということをお悩みのようでした。参加者からは、相談会に参加したことで耳鼻科で聴力検査をすること、補聴器は試聴して自分の聴力や生活に合ったものを選ぶことが大事ということが分かった、というコメントをいただきました。

第2回「きこえの相談会」は**9月13日(金)10:30**の予定です。詳細は院内に掲示するポスターに記載しますが、皆様のご家族や知人に聞こえについて不安を感じている方がいらっしゃったら、ぜひ相談会のことをお知らせください！

